

改訂版 学びの技

14歳からの
探究・論文・プレゼンテーション

登本洋子・伊藤史織・後藤芳文 著

16ページ増・カラーページ増でよりわかりやすく。
初版にはなかった「索引」を新設。
「論題設定」「論理的思考」に関する部分を大幅に見直し。
時代の趨勢とともに変化した「情報収集の方法」にも細やかに対応。
ワークシートが玉川大学出版部のHPからダウンロード可能に。

2023年11月刊行!

調べ、分析し、伝える。
“ラーニングスキル”の
基本を1冊に集約

探究学習に最適のテキスト



本書の特徴

- 見開き構成で、知りたいところ、必要なところが一目でわかる。
- 研究テーマの決定から、レポートや論文をまとめるところまで、ステップに沿って紹介。
- 効果的なグラフの書き方、引用文献の表記の仕方などを、実例とともに具体的に説明。
- 中高生だけでなく、大学生、社会人にも有用なスキルが身につく。

改訂のPoint!

- ★16ページ増・カラーページ増でよりわかりやすく。
- ★初版にはなかった「索引」を新設。
- ★「論題設定」「論理的思考」に関する部分を大幅に見直し。
- ★時代の趨勢とともに変化した「情報収集の方法」にも細やかに対応。
- ★ワークシートが玉川大学出版部のHPからダウンロード可能に。

A5判並製・168頁・定価1,980円(本体1,800円+税10%)

玉川大学出版部

中学校・高校での探究学習に最適のテキスト！

研究テーマの見つけ方から情報の収集・整理分析の方法、論文の書き方、効果的な発表の工夫までを網羅したテキストです。今回の大幅改訂では、玉川学園「学びの技」の授業で見えてきた改善点、探究学習で教員や生徒が迷いがちなところを加筆したほか、全ページを見直して、わかりやすさを追求しています。大学生の初年次教育にも適した内容となっています。

見開き単位で
「技」が身につく

「論文の書き方」の全ページに
論文で使いたい表現を多数掲載

Chapter 5 / 論文を書く技

7 論文の書き方③：基本知識・問題の背景

「基本知識・問題の背景」は、読み手が本論（根拠）以降を読む前に知っておいてほしいことを書きます。書いた論文をどのような人が読むのかを想定し、その人がどう理解してくれるかを想像しながら書きましょう。専門用語は簡単に説明を加え、わかりにくいところは、例を入れるなどで詳しく書くようにします。序論で書くことと本論（根拠）以降で書くことを書き分けると、論文の説得力が増します。

>基本知識・問題の背景

知っていることや調べたことをすべて書いてしまうのではなく、第3章以降を読む前に知っておいてほしいことを述べます。「問題の背景」には、扱っている問題の直接的な原因ではなく、その原因が生じたことになった状況を書きます。その問題を生じた構造には問題解決のヒントが潜んでいることもあります。

「基本知識・問題の背景」の書き方の例

とを総合的に考察した結果、「併当ではなく学校給食を継続すべきである」という結論に達した。

↓
●と●の間に1行空ける

第2章 基本知識・問題の背景

〔〕全日本学校給食委員会によると、日本の学校給食の起源は、1889年山形の私立愛国小学校で、戦時学食事を食ったのがルーツとされる。その後、戦時一帯の子どもを救って、ついに食糧配給としてパンなどが一部の学校で配られるようになっていったが、1940年代に入ると日本の食糧事情悪化のために中断された。食費問題は、家庭の経済的困窮により十分に食事を与えられていない子どもも多かった。

〔例〕戦後1945年以降は徐々に給食は再開され、1952年あたりからは食糧事情の改善により全国的に全食事を実施することが可能となり、……〔後略〕〔基本知識〕

〔理由〕食糧的に給食を支払えない保護者が問題視されており、アレルギーの特典などでも多く取り上げられるようになった。給食費を支払えない保護者の多い分としては、「給食の契約を結んでいない」、「義務教育だから払う必要がない」、「支払う余裕がない」などが多い。（中略）さらに、家庭は食費の増である。かつては給食費を一定額に抑えて子どもに食べさせ、食べることを強制しなかったことで、食べることを拒否したことを覚えていた。家庭で多量に食事を与えて物の量、考え方、対話の仕方、生活態度等、人間として生きていく上で必要な基本的能力を身に付けてきた。現在は、食性の偏りや高たんぱく食生活の定着から家庭のコミュニケーション不足も相まって、食生活と食育は深刻な状況となっている。（問題の背景）

↓
●と●の間に1行空ける

第3章 高品質で実践した食生活

学校給食を継続すべきという結論の第一の根拠として、成長期における高品質で安定した食

段落の始めは1字下げ

> 「基本知識・問題の背景」で使いたい表現

| | |
|---------|---|
| 書き出し | この論文（章）では、まず…を考察する。次に…、それから…。最後に…、…が問題になったのは…。 |
| 問題の背景 | この論文〔本論文/本研究〕における用語の定義（諸概念）について述べる。この論文〔本章/本節〕では…を〔考察/分析/検討〕する。 |
| 先行研究の背景 | このような…背景として…が挙げられる。さらに…。 |
| 先行研究の意義 | （人名など）は…の研究（調査）を行った。…について多くの研究がなされてきた。…が指摘しているのとおり、…。 |
| 研究の方法 | …については、研究者の間で意見が分かれている。…は広く受け入れられている。…についてはほとんど行われてこなかった。 |
| その他 | この論文では「〇〇〇」〔は…を意味する。/を…と定義する。〕…によれば「〇〇〇」は…という意味である。この論文では（ここでは）「〇〇〇」とは…を指す。 |
| 用語の定義 | 本研究では〔資料名/組織名/研究対象〕を〔分析/比較/調査〕する。 |
| その他 | …については後述する。…は（前述の〇〇章で述べた）とあり…である。 |

5 論文を書く技

何度か出てくる長い用語は、初回登場時に正式名称と論文中で使用する略称を置いておこう。

〔例〕国際原子力機関（International Atomic Energy Agency；以下IAEA）は原子力の平和利用のために作られた。IAEAは関連の専門機関ではないが、……

豊富なポイントが
理解を助ける

具体的な説明で
よくわかる

おもな内容

0 探究に向かう技

目標を設定する/調べ学習のその先へ/探究との向き合い方/探究学習のステップ/スケジュールの管理

1 論題設定の技

良い論題（問い）とは？/研究テーマの見つけ方/周辺知識から論題（問い）のアイデアを探す/論題（問い）の作り方/論題（問い）のブラッシュアップ

2 情報収集の技

メディアの特性/参考文献の記録の取り方/図書館の本の探し方/新聞・雑誌の探し方/論文の探し方/ウェブサイトの探し方/統計の探し方/アンケートの実施手順/アンケートの質問・選択肢の作り方/アンケートの集計の仕方/インタビューの仕方/電話のかけ方・メールの書き方/フィールドワークやその他の調査方法/情報の記録の取り方

3 論理的に考える技

論理的に考える/発表・論文の構成と下準備/「証拠収集シート」で情報を整理する/「探究マップ」で構成を検討する/根拠と裏付け/「予想される反論」と「反論に対する反論」/研究動機、基本知識・問題の背景

4 発表する技

発表の種類/発表資料の作成手順/効果的なスライドの作成/表・図式化でわかりやすく/表・グラフの書き方/発表の仕方/伝えるプレゼンテーションの組み立て方/発表の準備とリハーサル/聞き方のポイントと発表の活かし方/効果的な質問の仕方/オンライン発表会

5 論文を書く技

レポートと論文の違い/章・節・段落の設定/著作権と引用/図や表の使い方/論文の書き方/論文のチェックの仕方

6 評価の技

ルーブリック/振り返り/コンテストや研究会にチャレンジ

ご注文書 FAX 042-739-8940

改訂版 **学びの技**

登本洋子・伊藤史織・後藤芳文 著

ISBN 978-4-472-40631-7 定価 1,980円（本体1,800円＋税10%）

玉川大学出版部

〒194-8610 東京都町田市玉川学園6-1-1 Tel 042-739-8935 Fax 042-739-8940
http://www.tamagawa-up.jp/ E-mail: tup@tamagawa.ac.jp

★お近くの書店に本注文書をお持ちください。各オンライン書店でも販売しております。玉川大学出版部へ直接ご注文いただく場合は、お電話、Fax、E-mailで承ります。

番線印

ご注文冊数

ご担当

様